



## <「The Socratic Review」開発背景>

現在、日本の英語能力の基準は、英語検定や TOIEC といった検定で判断されています。例えば TOIEC で 700 点獲得ともなれば優秀であるとの判断のもと、英会話ができるのみならず、企業においてはこれら英会話能力のある人材獲得を狙うことが多いと思われます。ところが、こうした検定が「就職を有利するための評価」化しているという事実を Ansel Simpson（以下 Ansel）は懸念するのと同時に、検定での優秀な得点がビジネスの現場では生きていないと考察しています。

その理由のひとつには、ビジネスではその業種や分野において必要な語彙や表現が変わるため、一般的な英会話能力では推し量れず、検定における基準は意味をなさないことが挙げられます。

もうひとつには、日本人と英語圏の人のロジック（思考法）は異なるため、日本人の考え方は時折彼らに受け入れられず、また日本人も彼らのロジックを知らなければ、深いコミュニケーションを取り、結果を出すことはできない点です。

学習で培った記憶による英語力ではなく、ネイティブな思考に則した英語力が必要なのです。

### ■波風が立つ中でも信念を貫き、日本人の英語を鍛えてきた

日本が好きでもっと日本人に頑張ってもらいたいから

日本人の力をもっと海外に発信させ、もっと日本の力を認めさせるためには既存の英会話レッスンの内容では不足だと Ansel は身を以って感じてきました。

既存の英会話レッスンは、生徒獲得のためにエデュテインメント化しています。

利用者も楽しく英語が話せるようになればと、厳しさよりも楽しさを選択しています。

このように大多数のユーザーのニーズはエデュテインメントにも関わらず、Ansel は、これまでも一貫して英会話レッスンではなく英語能力向上トレーニングを推し進めてきました。英語でのコミュニケーションが本当に必要な人がイングリッシュスピーカーのロジックを学び、ビジネスで勝ってほしいという思いが強いからです。

### ■教えるのではなく鍛える

レッスンではなくトレーニング

生徒ではなくクライアント

「The Socratic Review」では、ビジネスを基本とする英語能力向上のためのトレーニングを行います。

長引く不況や東日本大震災からの復興を目指す日本は、今後、さらに国際化社会の中で有利な戦いを進めていかなければならなりません。

ところが、中国、韓国をはじめとするアジア勢の台頭、インドなど発展途上国の急速な国際進出により、競争力は今まで日本が経験したことのないほどの高まりになっています。その状況下の中では、従来のような英会話レッスンで学んだ英語能力では勝てないと考えられます。

日本という国全体のアイデンティティを高め、国際社会の中で勝つ英語能力を身に付けるために、あえて学ぶ人からは好まれない方法ながら、確実にレベルアップさせる、トレーニング式の“ブートキャンプ”をスタイルの基本に行います。

1週間に1回2時間、10週間で完全マスターを図るブートキャンプでは、プログラムがオーダーメイドであるためテキストはありません。

その代わりにクライアントから、仕事の情報収集や検索の際に使うウェブサイト、議論される点などについて情報提供していただき、それぞれの業種、仕事内容、目的に合わせて想定される必要な思考法、必須の語彙を織りまぜるセッションを行い、英語力を高めていきます。

例えば医者だからといって、心臓病の学会に出席する人に脳外科に関する英語は必要ありません。また、日常会話的な銀行口座の開設方法、天気の話、アパートの借り方といった英会話のトレーニングもプログラムからは外します。

クライアントがビジネスで勝つための必要な英語力だけを徹底的に磨き、クライアントが論理的なトピックを選択できるようサポートする「完全コンサルタント方式」の英語トレーニングを実施します。

ビジネスの場はまさに戦場。そのため、まさに英語で武装するかのごとく軍隊のようなハードトレーニングで実戦的英語を鍛えます。

## ■英語で撃て！！

基本はAnselとクライアントとの間での英語のセッションです。

Anselは『自分は講師、学ぶ人は生徒』とは呼びません。

互いに対等な立場で接するために学ぶ人をクライアントとして捉え、そのクライアントがビジネスで成功するための英会話トレーニングをサポートするのが自らの役目であるといえます。

だからといってクライアントが泣いてもAnselはおかまいなしでトレーニングを行います。クライアントの流した涙がその後に「自信」と「笑顔」に変わることをこれまでの経験から知っているからです。

日本企業が社内言語を英語化し始めている今、本当に伝わるコミュニケーションを図ることが、企業の生き残りの別れ道となります。

英語をマスターしたい人、英会話スクールに通うことに満足しない人、英語を武器に国際社会の中で戦える満足感を一番に望む人に対して、英会話レッスンの常識を覆す“涙と苦痛のトレーニング”に挑戦してもらいたいと思います。

## 【参考：クライアントの声】

Ansel のトレーニングを最後までやり通した人や Ansel の意図を理解している人からは、「私の用意が足りないことを認識させられた」「Ansel を認めている」という称賛の声が多数寄せられています。

以下、ブートキャンプによる英語武装を終え、国際社会でその力を発揮しているクライアントからの感想例をご紹介します。

### ■法律事務所弁護士 I・E氏

Ansel は私が受講した多くの講師の中でも際立った存在でした。

通常、英会話学校講師は生徒に会話を楽しませることを主眼としているように思えますが、彼は本当に生徒の英語力を高めようとしていることがひしひしと感じられたのです。

Ansel のトレーニングの最大の特徴は、生徒に考えさせることでした。

単に意見を述べるのではなく、その理由を説明するよう求めます。

さらに論理的かつ具体的に説明することを求めます。

これには当初大いに戸惑いました。

ただでさえ、英語の語彙や表現方法の持ち合わせが少ない上、それなりの意見を論理的かつ具体的に説明することは大変骨が折れました。

しかし、これは英語に限ったことではなく、日本語でも同じではないかと気づきました。

私は彼から英語を教わったのみならず、論理的に話すことの重要性を意識させてくれたことに感謝しています。

私は個人レッスンの材料としてアメリカの判例を持ち込んで議論することがあるのですが、彼は法律的な概念や理論も理解しており、有益なトレーニングになりました。

彼の勉強家としての一面を垣間見ることができました。

さらに生徒に合わせたセッションを構築する才能に脱帽した次第です。

## 【本件に関するお問い合わせ先】

Email: [ansel.simpson@socraticreview.com](mailto:ansel.simpson@socraticreview.com)

URL: [www.socraticreview.com](http://www.socraticreview.com)